

日本海海戦を
転機とした男たち

1

山本権兵衛

くすぶっていた東郷平八郎を抜擢

「私が個人として君に敬服していることが三つある。その一は、東郷中将を司令長官に起用したこと、その二は、海軍の教育、準備が真に慎重、周到であったこと、その三はまだ口外する時機ではない」

伊藤博文が山本権兵衛に放った言葉です。三つ目が何だったのかは、ついに分からぬまま伊藤は亡くなりました。

明治三十一年（一八九八）、海軍大臣となった山本権兵衛は、来る日露戦争のために、六六艦隊の整備を進めていました。しかし海軍の課題となっていたのは戦力の強化だけではありません。

当時海軍はまだ参謀本部の指揮下にありました。そこで山本は軍令部の完全な独立と組織改革に着手します。その切り札となったのが、東郷平八郎の連合艦隊司令長官への大抜擢でした。

東郷は山本より五歳年上。それまで華々しい経歴はひとつもなく、舞鶴鎮守府の司令長官としてくすぶっている存在でした。

日露戦争直前に山本が下した人事に、海軍

内では反発が起きました。特

に前任の日高壯之丞は薩摩閥

を代表する提督で、山本とは海兵寮の同期の仲でもあったため、突然の更迭に憤慨したといひます。

明治天皇から理由を問われ、山本は「東郷は運のいい男ですから」と奏したとされていますが、山本が東郷を抜擢したのは単なる思いつきではありません。

山本は日清戦争時に起きた、停船の警告に応じないイギリス船を東郷が国際法に基づいて撃沈させた事件で、彼の冷静で的確な判断能力を見抜いていたのです。

果たして東郷は日本海海戦で見事な働きを見せ、その名が世界に轟くとともに、山本の目に狂いはなかったことも証明されました。

日本海海戦は日本

海軍、東郷だけでなく、山本にとっても

転機となったのです。



山本権兵衛（国立国会図書館蔵）

戦艦「三笠」は日露戦争の日本海海戦で、東郷連合艦隊司令長官の座乗する旗艦として常に先頭で戦い抜き、日本を歴史的勝利に導きました。この歴史ある「三笠」は大正15年（1926）に記念艦となり現在の位置に固定されました。

【入 艦 料】

「三笠」入口で「本誌を見た」と言われた方は入艦料を100円値引きします（一般のみ）。

員数	区分	一 般	シ ニ ア	高 校 生
1 名		600 円	500 円	300 円
20名以上		500 円	500 円	200 円

【観覧時間】

4 月～9 月	3 月・10 月	11 月～2 月
9:00～17:30	9:00～17:00	9:00～16:30



船の上の
歴史ミュージアム

世界三大
記念艦

三笠

TEL.046-822-5225

<https://www.kinenkan-mikasa.or.jp/>

〒238-0003 神奈川県横須賀市稲岡町 82-19

●京浜急行「横須賀中央駅」から徒歩15分

●JR「横須賀駅」から三笠循環バスで「三笠公園」下車

